

ふるまぎ通信

～学校と地域の縁結び～



三沢市古間木小学校学校支援地域本部 担当者：内野 尚美／古間木小学校 コーディネーター：ニツ森孝子

学校や地域の概要

三沢駅前から見上げる丘の上、古間木小学校はいつもきれいに掃除がゆきわたり元気な挨拶の声が聞こえる気持ちの良い学校です。創立から104年地域に大切に育てられ見守られています。古くから「ふるまぎ」と呼ばれるこの地区は代々卒業生でありPTAとして学校を支えてきたという自負を持った方々がおいでになります。しかしながら最近は住民の高齢化と新興住宅の加入が相まって、学校支援地域本部事業は今一度地域の絆を結び直す機会ととらえています。

わが校のボランティア活動

もともと、毎年雑巾の寄贈やジャガイモ畑を作つての芋掘り体験や、昔遊びを指導してくださる各老人会の皆さん、歯の健康指導に尽力される歯医者さん、部活動の指導者など、ボランティアが活躍していましたので、まずは先生方の要望に応えるために学習支援に取り組んでいます。7月末に開設し、まだ数回実施したばかりですが、本事業の開設チラシと学校便りをみて自主的に老人会から親子環境奉仕作業に参加ください、学校からも地域へと出かけて行き、学校と地域相互が同時にボランティアの役割をつとめられたらと壮大な夢を抱きつつ、最初の一歩をしっかりと着地させたいと思っています。

コーディネートの実際

在校生の各家庭と町内会への学校支援地域本部開設告知と、ボランティア募集のチラシ配布から開始。学校が地区懇談会の折など事前に協力依頼をして地固めができており、町内会長さんから人材のご紹介や、ポスターの掲示をお願いに伺った先から情報を提供いただき、地域の皆さんとの助力を早々に得て心強く感じています。書面などによる直接の申込はまだ少ない状態ですが、実際の活動に際しては保護者も地域の方も「私にできることならば」と引き受けてくれ、日々の活動を積み重ねることによって発展するものと思います。

担当者・コーディネーターから一言

まだ始まったばかりの活動ですが「私にできることなら」と参加してくれた地域の方々の「楽しかった」という言葉と、子どもたちの笑顔、先生方からの感謝の言葉に、事業の目指すものを少しづつ実感しています。



上北地区

三沢市

わが校の主な活動

◇学習支援～3学年サツマイモのおやつ作り～

学校の畑に3年生が植えつけ観察して収穫したサツマイモを「おいしくいただきましょう。」と大学芋を作ることになり、各班1名ずつ6名のお手伝い依頼がありました。さっそくボランティア登録者にメールやファックス、電話で連絡しました。油を使うこと、調理経験は無いに等しい8～9歳の児童であることを考えると、少なくとも6名のボランティア確保が必要でした。ポスターを配布しながら知り合いのお宅に声をかけて3名確保しました。登録者からの参加はなし。ほとんどの家庭が共働きでも、その合間を縫って協力したい気持ちは山々なのです。しかし今回は日時の調整がつかず「ごめんなさい」の返事が続きました。なんとか、あと3名と老人会の会長さんにお願いするとすぐに6名紹介いただきました。



いよいよ調理開始。小さな手が包丁を握りサツマイモの堅さに悪戦苦闘し、切ったイモは文字どおり油に投入です。お手伝いのおばさんたちは皆ハラハラの連續にドキドキしながら、包丁に手を添え、油でやけどしないように気を配り、なんとか完成させました。子どもたちと一緒にほおばると、どの班からも「おいしーい」の歓声があがり、みんな満足の笑顔でお腹もいっぱいでした。



得られた成果

子どもの安全確保と子どもだけでは大変なところに補助を受けられること、先生が安心して気になる子の指導にあたることができたことが、良かった点としてあげられています。古い道具体験では、博物館の見学では得られない本物を見て触って当時の状況を生の声で聞き、深い理解へつながったと思われます。校外活動に多くの大人がいることで安心感があり、大人との会話や交流を楽しんだ様子です。ボランティアからは「子どもたちと一緒に楽しんだ」「自分がお役に立てたことが嬉しい」と感想をいただいています。また積極的に「次回はこうした方がいいかな」などの反省もあがっています。

今後の課題と展望

必要な人数確保のため支援要請を計画化することと、個人に限らず各種団体を巻き込み、従来のボランティアに指導・協力を仰ぎながら、継続することを第一義においていたネットワークを築き、誰かが人探しをするのではなく、必要に応じボランティアが参集する体制作りにつなげていきたいと思います。



生涯学習活動の拠点づくりへ

～伝統と歴史のある“最も古い学校”～



七戸町「結のまち七戸」地域支援チーム 担当者：町屋 淳一／七戸小学校 コーディネーター：兎内 正子・新山 栄子

学校や地域の概要

七戸小学校は、七戸町の市街地の北部、国道4号線沿いに位置しています。市街の商業地域と北部台状地に展開する振興住宅街が主たる学区です。

七戸町は、古くから城下町として栄えた町で、過去上北地方の中心的存在でした。しかし、終戦後は急激な社会の変化にあい、七戸町に通学する子どもが減り、郡下の物産を集めた市場も郡役所やその他の官庁も去り、静かな町となって時を過ごしてきています。

平成22年に開業する東北新幹線へ向け、学区内に位置する七戸・十和田駅周辺の整備等が進んでいます。

本校における児童数は265名、PTA会員数は200戸です。

わが校のボランティア活動

校外学習ボランティア（2年・3年・4年・6年）、体験学習ボランティア（2年・4年・5年・6年）、読み聞かせボランティア（1年・2年）、環境整備ボランティアなどは、長年にわたり保護者の方や地域の方々によって続いてきています。

昨年からは、読み聞かせに来ているボランティアの方々が中心となり、保護者の方々と一緒にになって図書室の環境整備のボランティア活動を行っています。

コーディネートの実際

先生方からのボランティア要請に対しては、先生方も忙しくなかなか要請を聞き出すことができないので、こちらから学校内の行事予定表などを見て、「ボランティアの必要はないですか？」などと、一声、声掛けるようにしています。

また、ボランティアとの連絡や参加したボランティアが活動しやすいよう学校との連絡調整を行っています。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーターを学校内に配置していることで、ボランティア活動のチラシや写真等を掲示したり、ボランティアの方々が活動しやすいように、名札やジャンパー等を玄関に備え付けておくなど、きめ細かい配慮を行うことができています。

わが校の主な活動

校内での読み聞かせ活動はこれまで行わっていましたが、七戸町のボランティア団体である「おはなしのへや」の方々が中心となって昨年から図書室の環境整備活動を始めました。

活動内容は、絵本コーナーの飾り付けからはじまり、新着本の受付登録、ラミネート張り、本の修理などを行っています。今年から保護者の方々にも広く呼びかけを行い、平日にもかかわらず沢山の方々に参加していただいています。



また今、学校では、暗唱に力を入れ「めざせ！暗唱名人」という学習に取り組んでいます。段階によって異なる課題が出され、「春の七草」や「方丈記」、宮沢賢治の「雨にもまげず」といった様々な課題の暗唱に子どもたちは取り組みました。図書室の環境整備の際に、その話題に触れたところ、「図書室に宮沢賢治コーナーを作りたいね？」ということになり、図書ボランティアの方々で宮沢賢治のことを調べ、本を選んだり、クイズなどを作って図書室の飾り付けを行いました。



月1回の活動ではなかなか図書の整理までは手が行き届かないでの、図書担当の先生からも、「出来れば週1回ぐらいの活動にしてくれるといいですね？」と話しているところです。

得られた成果

子どもが卒業して、これまで学校に足を運ぶ機会のなかった方々など、地域の方々が徐々に集まるようになり、図書室の環境整備活動等を自主的に行うことで、学校施設内において“生きがいづくり”等、生涯学習活動の一端も担うことができています。

今後の課題と展望

現在、図書室の環境整備活動は、月1回程度の活動となっていますが、図書の整理等がなかなか進まないため、今後は曜日を決めて活動していきたいと考えています。そのためにも、コーディネータールームやボランティアルームなど、保護者や地域の方々がさらに集まりやすい場所の確保と整備を図ることが必要です。それによりさらに多くの方々が学校に集まり、ボランティア活動を展開できるのではないかと考えています。

また、こうした活動を通じてPTAOBから現役のPTAに図書の環境整備に係るノウ・ハウを引き継ぐことができ、保護者等、地域と学校が連携した学校経営に結び付けることができると思います。



子どもたちの成長を願って

～学校や子どもたちの力強いパートナー～



七戸町「結のまち七戸」地域支援チーム 担当者：町屋 淳一／城南小学校 コーディネーター：伊藤 紀子・浦田るみ子

学校や地域の概要

- ・学校紹介 昭和37年に七戸小学校より分離、城南小学校として創立し、平成14年には野々上・西野小学校と統合し、満47年の歴史をもつ学校です。本校における児童数は250名、P T A会員数は188戸です。
- ・地域紹介 旧城南学区は商店等の自営業、会社員、公務員が多く、野々上・西野地区は田畠が広がり田園地帯が続いています。それぞれの旧学区の地域の特性を生かし、地域や保護者の協力を得ながら教育活動に取り組んでいます。

わが校のボランティア活動

- ① ベルマーク整理
- ② 図書整理および読み聞かせ
- ③ 学年依頼の校外学習の引率補助
- ④ 水泳教室の指導補助・監視
- ⑤ ミシン学習補助
- ⑥ スキー教室指導補助
- ⑦ 七戸高校の生徒による学習支援（丸つけ）

コーディネートの実際

- ① 学校支援に係るボランティアについての啓発活動
- ② ボランティアの募集
- ③ ボランティアの割り振り
- ④ ボランティアの活動に対する助言

担当者・コーディネーターから一言

教頭先生とコミュニケーションがよく取れていて、ボランティア業務全般に関してきめ細かく迅速な対応をしています。



わが校の主な活動

◇水泳教室

6月24日～9月11日まで18回行われた水泳教室の指導補助、監視あわせて延べ41名のボランティアの方々にご協力いただきました。

特にボランティアが指導に加わることにより、子どもたちは個別に応じた指導を受けることができ、レベルアップにつながりました。

また、監視を行ったボランティアは、体調を崩している子どもの観察、危険行為(走る・飛び込み)の注意はもちろんのこと、特に低学年においては、帽子やメガネの着脱・鼻血の処置・更衣室での忘れ物点検などを行いました。



得られた成果

水泳、スキー、マラソンなどボランティアが近くで指導したり励ましたりすることによって、子どもたちが頑張り、技術の上達やタイムアップなどにつながっています。先生方は、昨年までのボランティアにかかわる事務手続きを含めた業務全般についての仕事量が軽減されたと感じています。

また、ボランティアにとっては、普段の学校や子どもたちの様子が分かったり、先生方や子どもたちとふれあいができたりして、参加してよかったですとの感想が多く寄せられています。

今後の課題と展望

ボランティア活動によく参加してくれていた保護者でも、子どもが卒業すると連絡手段がないせいか、また、わが子のためと思って参加する動機がなくなるせいか、現役の保護者以外の参加があまりないのが残念だと思います。個人的に依頼すると参加してくれる方もいるので、子どもの卒業後の呼びかけを工夫する必要があると思います。

また、現在は、保護者を中心としたボランティア活動の呼びかけが中心となっているのですが、今後、祖父母等、地域住民への呼びかけも増やしていく工夫が必要だと考えています。



生徒が集まる図書室づくりを目指して

～地域の図書ボランティアが結集～



七戸町「結のまち七戸」地域支援チーム 担当者：町屋 淳一／七戸中学校 コーディネーター：兎内 正子

学校や地域の概要

(学校の概要)

昭和22年4月に、六・三制により七戸町立七戸中学校が創立され七戸小学校に同居して開校しました。

昭和32年、現在の場所で新築校舎の起工式を行いました。

平成14年、西野中学校・野ノ上中学校と本校が統合し七戸中学校となりました。

本校における生徒数は294名、PTA会員数は245戸です。

(地域の概要)

自然に恵まれた農村地帯で、西端には八幡岳がそびえ、東に延びる丘陵は起伏に富むがその大半は国有林野、牧場、国公有地などで占められています。集落は山間にひらけた平坦地や河川流域に散在し、市街地は東部に位置しています。

わが校のボランティア活動

- ①環境整備…PTAが中心となった校内の環境整備活動
- ②学習支援…夏季休業中における県立七戸高校の生徒による数学や英語の学習支援活動
- ③体験学習…1年生の職場体験活動の際の地元企業等の受け入れ
- ④図書室整備…地域のボランティア団体の方々と保護者による図書室内の環境整備活動

コーディネートの実際

図書室の環境整備の際に、図書ボランティアの方々へ協力を依頼したり、保護者への呼びかけを行いました。

また、特に教頭先生と連絡を行い、ボランティア活動に際しての準備等を行っています。

担当者・コーディネーターから一言

図書室の環境整備については、学校側からの要請によって始まりました。

これまで使用時以外は、ドアに鍵がかかり生徒が入ることのなかった図書室も、ボランティアの方々の協力のもと、生徒が興味を持つように図書の整理をおこなっていただき、また景観も明るくなり、今では昼休み時間など、生徒が集まるようになっています。

わが校の主な活動

◇図書室の環境整備

図書室の環境整備は、昨年の暮れに校長先生から「図書の整備にボランティアを入れたいのですが…」という相談を受けたのがきっかけでした。

「保護者だけでは生徒が卒業してしまえば続かないで…地域の方を含めて長く続ける方法を考えてほしい。」ということで、公民館を中心に活動している図書ボランティアの「おはなしのへや」の方々に依頼しました。



七戸中学校の図書室は、何年間も整理されておらず、埃をかぶってずっと読まれていない本が棚の中に並べられたり、棚の位置や高さの問題で暗い感じがしていました。そこで不要な古い本を処分したり、本箱の位置を移動し、お勧めの本の紹介等の飾り付けを行いました。図書室は格段に明るくなり、昼休み時間には生徒たちも集まるようになり、本を読む姿が見受けられるようになりました。これからも新しい本が沢山入ってくるので、調べ学習等ができるように分類番号順に整理をしたいと考えていますが、現在月1回程度の活動を行っているので、なかなか図書整理が追いつかないのが現状です。さらに、保護者に周知しながらボランティア活動を普及したいと考えています。



図書の環境整備をおこないながら、「おはなしのへや」の方々と「今年は太宰治生誕百年なので、太宰コーナーを作りたいね?」といわれて、図書室の廊下の壁に「太宰治ワールドへの誘い～生誕100年を向かえ、再び脚光を浴びる～」と題したQ & Aコーナーを作り張り出しました。

得られた成果

中学校を拠点として、保護者および地域の方たちが交流を持つ良い機会ができました。また、小・中学校を通じて読み聞かせや図書の整理等に精通した方が、中学校の活動で一堂に会することで、七戸地区そのものの図書ボランティアのさらなるスキルアップにつながりました。

今後の課題と展望

図書ボランティアは、月1回の活動では図書の整理をすることが難しいので、もっと計画的に活動が出来るように、PTA委員会などと連携して活動できれば良いのではないかと思います。

学力向上や進学等に関わる教育活動に対して、地域住民が広く参加していくための方策について学校側と十分に協議していく必要があります。



子どもを育てる地域の力

～咲かせようボランティアの花～



七戸町「結のまち天間林」地域支援チーム 担当者：町屋 淳一／天間西小学校 コーディネーター：川村リチエ

学校や地域の概要

- ・学校紹介…天間西小学校は天間林地区の中心地に位置し、児童数258名、PTA会員数212戸。昭和52年4月、当時の6小学校が、西小学校として新設統合されました。統合から32年、児童数は減少傾向にあります。
- ・地域紹介…学校から500m以内には、役場・公民館・町立体育館・屋内温水プール・福祉センター・保健センター・中央公園等、公共施設があり、農業が基幹産業です。住民は、旧小学校区域ごとに、文化・スポーツ等の交流があり、地域住民のコミュニケーションが円滑に行われています。

わが校のボランティア活動

学習支援・環境整備等のボランティア活動が例年実施されていますが、我が校の場合、読み聞かせ・水泳指導ボランティアが入るようになってから4年目になります。

また、図書ボランティアも、毎週火・水・木曜日に定期的に図書室で活動を続けています。読み聞かせボランティアは、月2回、朝読書の時間に、全学級に読み聞かせを行っていて、読書推進活動につなげています。水泳指導ボランティアは、6月～7月にかけて、1～6年生まで各学年3回ずつ実施される水泳教室において、水泳協会や女性だけの水泳グループから、25人のボランティアが交代で、子どもたちの水泳指導を行っています。

コーディネートの実際

・コーディネーターとしての工夫

学校の要望と地域の要望が結びつくように、地域の情報収集に努めています。

・本校のコーディネートのポイントあるいは特徴など

学校の要望が、技術的なものを要する場合においては、地域の組織団体の理解を得て協力をいただいています。水泳指導ボランティア・読み聞かせボランティアは、組織された団体であり、庭木剪定ボランティアも、庭木に精通している住民たちのボランティアです。

担当者・コーディネーターからの一言

学校支援ボランティアにより、児童の学習意欲・技術の向上が図られており、地域の教育力向上につながっています。今後、地域住民との連携を深めながら、地域社会の活性化につ



なげていきたいと考えています。

わが校の主な活動

◇水泳指導ボランティア活動

6月17日から7月9日まで、1日に2学年（2回）ずつ、9日間実施された水泳教室。我が校の水泳指導ボランティアとして4年目になるボランティアの皆さん。今年も25名の方々が協力してくださいました。

各学年の子どもたち一人ひとりに、きめ細かく丁寧な指導をしていただき、お陰様で、1年生から6年生まで、めざましい上達が見られ、子どもたちは、水泳教室の日の朝には、キラキラと目を輝かせ、回を重ねるごとに、自信に満ちていく顔がとても印象的でした。

低学年は、水もぐりの練習・水中ジャンケン・アクアポールで水に浮く感覚を覚えたり、ビート板に手をのせてバタ足の練習をし、最終日はビート板なしで泳げる子どもたちもでてきました。高学年はきれいなけいのびや息つきの練習をし、全員クロールを泳げるようになり、特に6年生は、全員、25m以上泳げるようになりました（100m泳げる子も）。水の苦手な子どもたちには、1対1の親切な指導をしてくれました。

子どもたちは、優しく教えてくれたので上手になった、わかりやすく教えてくれた、泳げるようになってびっくりした等の感想がありました。先生方からは、水に潜るのが怖いと言っていた子がビート板なしで泳げるようになった、小グループに分けてきめ細かな指導



をいただいてありがたい、水への恐怖心を持っていた子がプールへ行きたいと言うようになった等の感想がありました。ボランティアの皆さんからは、水泳を教えることが楽しい、泳げなければ泳げないほど教えてあげたいと思う、子どもたちが目に見えて上手になっていくので楽しかった等の感想がありました。地域ぐるみで子どもたちを育てる意識が高められています。

得られた成果

- ・子どもたちが意欲を示すようになりました、水泳学習を楽しむようになりました。
- ・ボランティアの持つ専門性により、教師だけでは行き届かない指導、個人差に対応した指導で、子どもたちは泳力を伸ばすことができ、学校はボランティアの指導に期待を寄せて います。
- ・ボランティアは、子どもたちの泳力の向上で、活動に価値をみいだし、自分たちの意欲につながっています。

今後の課題と展望

学校の近くにある町立の屋内温水プール（通年利用）を通じて、地域性が生かされた特色ある活動として、地域の方々と連携を深めながら、共に継続実施していくたいと考えています。



開かれた学校づくりを目指し

～地域(老人クラブ)とPTA活動との連携～



七戸町「結のまち天間林」地域支援チーム 担当者：町屋 淳一／天間東小学校 コーディネーター：山本 皇子

学校や地域の概要

(学校の概要)

昭和48年、楓林小学校、二ツ森小学校を統合し、楓林小学校となりました。昭和49年、花松小学校、李沢小学校を加えた4校が統合し、東小学校となりました。平成21年、全校児童104名、PTA会員数75戸となっています。

(地域の概要)

本校学区は、どの地域も台地の上に集落を形成し、それぞれの南側には水田が開け、七戸川、坪川沿いに小川原湖まで続いています。

経済的には平均的な農村地帯ですが、農業そのものは祖父母が行い、若夫婦は会社勤めをしながら、農繁期に農業を手伝うという家庭が増えています。学校に対する協力体制はかなり良い地域です。

わが校のボランティア活動

各学年で保護者の協力が必要な場合、担任の通信をとおして募集し、活動が行われています。また、PTA事業の中でPTA全体に募集をかけるもの、委員会主導で募集し活動するものがあります。さらに、外部から毎月、お話の会「ゆりかご」が読み聞かせを行っています。

コーディネートの実際

今のところ、コーディネーターとしてコーディネートをする場面が多くはありません。元々、小規模校ということもあり保護者の数も限られているため、学年単位でボランティアを募集することで成り立っています。

また、PTAが積極的にPTAOBや老人クラブ等に働きかけ、環境整備等の活動を行っています。

お話の会「ゆりかご」の活動については、学校からの要望によってこれまで読み聞かせが続けられてきました。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーターの活動は今のところ情報紙等の啓蒙活動が中心となっていますが、ボラ



上北地区

七
戸
町

ンティアだよりを見た保護者の方から、学校や他学年の様子もわかって嬉しいとの反応があり、これからも続けていきたいと考えています。

わが校の主な活動

◇校舎内外環境整備

8月2日（日）9時から、小雨の降る中、およそ3時間、地域の方々(老人クラブ他)・PTAの皆さんの協力により校舎内外の環境整備に取り組んで、とても綺麗になりました。

校内の環境整備は大掛かりな作業となり人手も多くいることから、今年度は老人クラブの方々にも御協力いただきました。

校舎内では、普段子どもの手が届きにくい体育館の窓枠やレールの掃除、廊下の壁のペンキ塗り、外では、校門近くの松の木の剪定とむつみの森の枝払い、校庭の草取りを行いました。

協力してくださった皆さん、PTA会長の終了時間を知らせる一声で集合し、集合写真を撮って解散しました。

老人クラブの方々からは、「来年も来たいよ、楽しいねえ。」「まだやり残しがあるけど、良いのかねえ？」とのお言葉をいただきました。

地域と学校とがしっかりと連携がとれていると感じました。



「来年も来るよ！」と出番を楽しみにする老人クラブのみなさん

得られた成果

- 特に、子どもたちの掃除時間にはできない体育館の窓枠やレールの掃除、廊下の壁のペンキ塗り、庭木の剪定や草取りなど、学校内外が綺麗になりました。
- 子どもたちが喜ぶ顔を思い浮かべながら行うボランティアの気持ち良さを感じました。
- 地域の方々の協力（老人クラブ他）を得ることができました。
- 老人クラブの方からは、やりがいと喜びがあると喜んでもらえました。

今後の課題と展望

- PTA全世帯がいずれかの委員会に所属しています。これまでもPTAが中心となり各種活動を行ってきましたが、今後も環境整備活動など、無理のない範囲で継続して活動できるよう、学校と地域がさらに連携を深めていく方策を考えていく必要があると考えます。
- 小学校がしていただく側になっているが、小学校から地域に何かできることはないとどうか？という校長先生の言葉がありました。



公民館分館との連携から

～学校と地域のかけはし～



七戸町「結のまち天間林」地域支援チーム 担当者：町屋 淳一／天間館中学校 コーディネーター：山本 皇子

学校や地域の概要

天間館中学校は昭和22年創立。学区は天間林地区の西側に位置していて、天間西小学校の学区と同じとなっています。また、在籍数の13%が冬期間スクールバスを利用しています。

保護者の職業は、農業のみでは生活できない面もあり、会社員も多いのですが、規模こそ違え兼業農家である場合が多くみられます。また、学校への期待感が強いのと同時に学校への協力・支援を惜しまない地域です。

本校における生徒数は167名、PTA会員数は157戸です。

わが校のボランティア活動

廃品回収等は学校から公民館分館を通じて全世帯に協力を依頼しています。

また、校内環境整備等のPTA事業は、PTA全体に募集をかけ活動しています。

また、外部からゲストティーチャーとして、「我がまちの歴史」や「郷土料理」について講師を依頼しています。

今年度からは県立七戸高等学校の生徒による夏季休業中の学習支援活動も行われています。

コーディネートの実際

「我がまちの歴史」や「郷土料理」についての講師は、平成20年度のコーディネーターにより行われました。今年度からは学校側が直接講師へ依頼を行っています。

これまで行われてきた活動は、学校やPTAが主導で活動を続けていて、今のところコーディネーターとしてコーディネートをする場面が少ないとため、情報紙などの作成配布による広報活動が中心となっています。

担当者・コーディネーターから一言

中学生になると、学校に行く機会がなくなり掲示物があっても見る機会がなく、ボランティアだよりで活動の様子が知れて嬉しいとの声が多く、これからも続けたいと思っています。



わが校の主な活動

平成20年度から始まった本校の「学校支援ボランティア」は、PTA役員や保護者、地域の方々がコーディネーターを中心に、学校支援を通して子どもたちの学力や健全育成、あるいは地域の絆を深めることをねらいとして、「廃品回収」や「親子環境整備作業」を行っています。

「廃品回収」は、早朝7時から開始、保護者が用意したトラックで学区にある公民館分館などを回り、古新聞や雑誌、段ボールや空き瓶、アルミ缶など回収します。それを分別して回収車に積み込むのは、3年男子生徒と保護者です。山盛りになった回収物を、世代をこえて一緒に汗だくになって作業をしたことは、“親子のふれあい” “学校と地域の絆”が益々深まったように感じられました。また、地域の方々からも廃品の提供等の御協力をいただきながら実施しています。

また、「親子環境整備」でも早朝から保護者が親子で参加し、校地内の草取りなどの作業で汗を流してくれました。おかげさまできれいになりました。



得られた成果

- ・保護者が支援活動をする中、子どもたちが連携して活動し、お互いに活動する喜びを分かち合いました。
- ・公民館分館等を通じながら、地域の方々が学校や生徒のために間接的ではありますがボランティア活動等に参加していることを知ることができました。
- ・生徒を通して配布されたお便りで、来られなかった家族や知人にも活動の様子を知らせることができました。
- ・地域の世帯にも協力に対して感謝の気持ちを込めてお便りを配布し喜ばれています。

今後の課題と展望

- ・もう少し、お父さんたちの参加がほしいと思います。
- ・今年度初めて3年生に対して、地元の高校に通う先輩による学習支援活動がありました。数日でしたが集中して学習できたとの感想もあり、今後も続けていきたいと考えています。
- ・地域という観点からも、7か所ある公民館分館とのさらなる連携が必要です。

学校・家庭・地域の連携を考える

～小規模校の取組から～



七戸町「結のまち天間林」地域支援チーム 担当者：町屋 淳一／榎林中学校 コーディネーター：山本 皇子

学校や地域の概要

榎林中学校学区は、町の東部に位置し、坪川・中野川が流れ、さらに七戸川に合流する地域で、水稻・にんにく・長いもを主栽培とする農村地帯です。学区民の教育・学校に寄せる関心は高く、特に部活動への関心が強くみられます。剣道・バレー・テニス・ソフト・野球などが郡で優勝したり県大会や東北大会でも優勝や入賞をしてきていて、部活動後援会が組織され学校への協力・支援など積極的です。PTA活動・運営にも参加、協力してくれる人が多い地域です。

近年は、共働き家庭がほとんどであり、時代の流れによる教育課題も出てきていますが全般的には教育に熱心です。

また、少子化による生徒数や保護者数の減少により学校統廃合も議論されています。

本校における生徒数は53名、PTA会員数は48戸です。

わが校のボランティア活動

平成20年度は、教員を対象に地域の婦人会の方々による「虎丈様」の踊り指導をしていただきました。

また、これまで文化祭や校内環境整備など、学校行事ではPTAを中心に協力を得ながら進めています。

図書ボランティア「おはなしのへや」の方々による読み聞かせ活動も行われています。

コーディネートの実際

「虎丈様」の講師は、平成20年度のコーディネーターにより行われました。これまで行われてきた活動は、学校やPTAが主導で活動を続けており、今のところコーディネーターとしてコーディネートをする場面がないため、情報紙等の作成配布による広報活動が中心となっています。

担当者・コーディネーターから一言

コーディネーターの活動は今のところ情報紙等の啓蒙活動が中心となっていますが、ボランティアだよりを見た保護者の方から、学校(他学年)の様子もわかって嬉しいとの反応があり、これからも続けたいと思っています。

わが校の主な活動

◇ 「榎中祭」そばコーナー等出展

「榎中祭」支援のお母さんやお父さん、関係者の方々が集まって、そばコーナー等出展のために、2ヶ所で作業を行いました。男性の方々は、体育館で流し台やガスコンロ



の設置・点検。女性の方々は、調理室で食材を洗って下揃えし、集会所の班は出し汁づくりなど、和気あいあいと作業に励んでいました。参加したお母さん方からは、「今までお話する機会がなかった人、子どもの友だちのお母さんたちとも交流ができるて参加してよかったです。明日は、子どもたちと一緒に楽しみたい」と感想をもらいました。

掲示板の前で立ち止まり、活動の様子を見て、「あれ？この人○○さんじゃない？来てたんだね。」という話になりました。



得られた成果

- ・子どもたちに対して保護者が支援活動をすることは、当たり前のことであり、自然な姿であることを身をもって伝えることが出来ました。
- ・親子で連携して活動し、お互いに活動する喜びを分かち合いました。
- ・生徒を通して配布されたお便りで、来られなかつた家族や知人に様子を知らせることができました。
- ・廊下の壁に掲示してある昨年度のボランティア活動の様子を見た地域の方々にも学校と地域との関わりを知らせることができました。



今後の課題と展望

- ・世帯数の少ない中、保護者の皆さんは連絡を取り合い、学校・子どもたちのために協力は惜しまないものの、ますます減っていくことを考えるとどのように協力出来るのか今後検討していく必要があります。
- ・学校内行事等、同じ学区内である天間東小学校や地域にある4カ所の公民館分館との連携についても検討していく必要があると考えます。

みんな(地域)で支える学校、子ども

～学校支援ボランティア活動への取組～



横浜町学校支援地域本部事業 担当者：小関むつみ／有畠小学校 コーディネーター：鳥山美詠子・高橋 幸枝

学校や地域の概要

有畠小学校は上北郡最北端の学校です。西側は陸奥湾に面し、北西には釜伏山を臨み、東南の丘には風力発電の白い塔が6基そびえ立っています。

学区は、下北に通じる国道279号線沿いの鶴沢地区、有畠地区、浜田地区からなり、校地のすぐ近くをJR大湊線が通り、JR東日本の有畠駅が隣接しています。平成17年3月に58年の歴史を閉じ、閉校になった中学校が併設されていた当時は、大豆田地区もこれに加わっていました。

わが校のボランティア活動

本校のボランティア活動は、平成20年度の10月からスタートしました。1年目の活動は体制作りや計画作りが主となり実質的な学校支援活動は本年度から行われています。今年度は、花壇整備事業・図書整備事業・学習支援と主に3つの事業を行いました。花壇整備事業は、横浜町農協の原田指導員の指導のもと、地域の老人クラブの協力もありたくさんの花を植えることができました。図書整備事業は、有畠母親クラブの協力で、たくさんの本の補修、新刊の整理ができました。学習支援は、登録されたボランティアと先生方のニーズに合わせた対応ができたと思います。

コーディネートの実際

本校では、「できる人ができる時にできることをする。」を前提に、コーディネートをしています。学校からの依頼を受け、依頼内容に合う登録者へ連絡をし、都合を確認します。ボランティアの方が決定後、依頼の案内をしています。

図書整備では親子で活動し、校外学習の引率や花壇整備などは、地域のボランティアをお願いするなど、ボランティアの配置を工夫しています。

担当者・コーディネーターから一言

未来を担う子どもたちを育てることは、学校・地域にとって共通の願いであるので、情報を提供しあい活動していきたいと考えています。



わが校の主な活動

今年度から始まった、学校支援ボランティアの中で一番の成果は学習支援です。家庭科のミシン掛けの補助、社会科見学の際の引率、読書甲子園の審査員と学校から依頼されたことの全部にボランティアを配置することができました。

家庭科では、5・6年のエプロン作りのミシン掛け補助を2人お願いし、先生の指示のもとボランティアの方が声掛けしながら進め、途中でミシンのトラブルなどがあっても先生の手を借りずに続けることができました。

社会科見学は、3年生がむつ市のマエダ百貨店に行き、店内の見学や店内の従業員、お客様に質問をする際に補助をしてもらいました。班ごと分かれての行動だったので、ボランティア3人を配置しました。広い店内でしたが、トラブル等もなくスムーズに活動が終了しました。

読書甲子園は、子どもたちが3冊の本の紹介の仕方を競うもので、3日続けて3人のボランティアの方に審査員をお願いしました。



ミシン補助の様子



社会科見学の様子



得られた成果

実際にボランティア活動をすることにより、保護者や地域の方が「学校支援ボランティア」を理解しつつあると思います。

社会科の校外学習では、班ごとにボランティアを配置したので、店内でのアンケートや買い物体験など、「安心して見守れた。」と、先生方はおっしゃっていました。

ボランティアの方にとっては、自分にできることをすることでの、楽しみながら活動でき、来校するきっかけにもなっていると思います。

今後の課題と展望

勤務時間内で先生方と打ち合わせをするのが難しいので、教頭先生が「ういすみー」という支援依頼書を作成し、職員室に設置してくださいました。今後は、多種多様な依頼がでてくると思います。私たちはそれに応えられるよう地域の方へ声をかけ、学校支援の輪を広げていきたいと思います。

子どもたちは、地域にとっての宝物

～地域みんなで学校へ行こう～



東北町小川原地区学校支援地域本部 担当者：甲地 和寿／小川原小学校 コーディネーター：富岡真由美

学校や地域の概要

学校紹介

小川原小学校は全校児童66名とPTA会員42名の小規模校です。学校への保護者の協力がとても盛んで、特に学校行事には、ほとんどの保護者が参加し、積極的に活動しています。

地域紹介

3世代以上が一緒に暮らしている家庭が多いせいか、子どもたちもお年寄りを敬い、老人クラブを初め、地域の団体の協力を得ながら、いろいろな人たちに学校を支えていただき、学校と地域が一体となっています。

わが校のボランティア活動

平成20年10月から学校支援地域本部事業をスタートし、学校支援コーディネーターが配置されたことで、学校のニーズに沿ったボランティアを募集するようになり、登録していただいたボランティアも150名を超えるました。

また、田植え、稲刈り、脱穀などの合同行事に、地域の老人クラブなどの協力を得ながら、より多くの方々と世代間交流をはかり、地域の輪が広がっています。

特に今年度は、学習支援の校外学習の引率などを中心に、保護者をはじめ参加者と子どもたちが一緒に学び、交流できる場を確保していきたいと思っています。

コーディネートの実際

校外学習の引率ボランティアの場合は、新学期の段階で年間の校外学習予定を学校側から情報としてもらい、一括して募集して、定員を超えた場合は、コーディネーターが担当の職員に相談しながら、調整するようにしています。

また、確定したボランティアには、事前に集合時間、場所、内容などを連絡し、当日は名札を付けてもらい、子どもたちには必ず、紹介するようにしています。

ボランティアを募集しても、なかなか集まらない時などは、PTAをはじめOBの方々に直接声をかけ、参加してもらったりしています。

担当者・コーディネーターから一言

まだまだ地域の方々の中に、学校のニーズに合致したボランティアの方々がいると思うので、町の文化協会や社会福祉協議会、体育協会等の情報を得ながら、連携を取り合い、人材バンクをより充実させていきたいと思います。

また、今後は、図書ボランティアを読み聞かせなどを中心に、活発化させていきたいと考えています。

わが校の主な活動

◇体験学習・小川原湖デー（学習支援：総合）

6月27日（土）今年初めての試みである、全校児童と教職員、ボランティアの方々による[小川原湖デー]が行なわれました。小川原湖での網引き体験、シジミ採りなど様々な活動に子どもたちは、朝からわくわく、ソワソワ楽しみな様子でした。

まず、小川原湖までの4kmの道のりを7名の引率ボランティアの皆さんに協力をいただき、歌を歌いながら全員で歩き、その後、シジミ採り、地引網、昼食の調理など、それぞれの活動ボランティア37名の力を借りて、楽しいひと時を過ごすことができました。たくさんのボランティアの皆さんに、感謝、感謝！です。

毎年、地引網体験は、3、4年生の体験学習でしたが、今年は学校行事として全校挙げての行事となり、ボランティアを募集したところ、多くの方々が積極的に参加してくれました。

P T Aの役員、学年委員をはじめ、各担当の役割分担から、後始末までしっかり補助していただいて、子どもたちも有意義な一日を過ごすことができ、ボランティアの引率のおかげで事故もなく、より安全に活動を楽しむことができました。

また、ボランティア側からは、子どもたちと貴重な体験を一緒に行なうことが出来、参加して良かったと、言ってもらいました。来年も、引き続き合同行事として、多くのボランティアの方々に参加していただきたいと思います。

得られた成果

子どもたちとボランティアが同じ活動をすることによって、同一の作業、学習を通してお互いを理解し合い、親睦を深めることができました。

また、ボランティア同志がコミュニケーションを取りながら、協力しあって活動する状況は、理想的で、微笑ましく思えました。

ボランティア側から見ても、子どもたちの笑顔や元気に活動する姿に接することができて、やりがいのあるボランティア活動に意欲が沸いてきているようです。これからも、どんどん学校に足を運んで、元気で充実したボランティア活動を進めて欲しいと思っています。

今後の課題と展望

校外学習の引率など、一度参加いただいた方は、二度三度と積極的に参加申し込みをしてもらっていますが、もっと多くの方に参加していただけるよう、募集要項を見直し、広報をもっと充実させていきたいと思います。

また、将来的にボランティア同志の研修や交流会を開催できるようにして行こうと考えています。



おいしいシジミ汁だね！



どれ、どれ、大漁かな？

